

#### 4. 第3回および第5回調査のサンプルのゆがみ

第1回調査の全サンプルの回答（「理想」の調査）と、第3回で回答したサンプルまたは第5回で回答したサンプルに限った平均値・分布を比較した結果が表4、5である。第3回よりも第5回調査の方が、実際の回答サンプルに限った場合、1%水準、5%水準で差が有意である項目が増えている。差が有意となっている項目は、表2、3でみた継続・脱落サンプルの比較とほぼ同様の傾向を示した。主な項目のみ述べると、連続変数では、第3回・第5回調査回答サンプルに限った場合、第1回の全サンプルに比べ、回答者とその配偶者の月齢平均値が高く、配偶者との同居期間も長い。第5回データでは、家事・育児時間も差が有意となっている。また、子ども数・同居人数も第3回・第5回回答サンプルに限った方が多くなっている。

離散変数では（表5）、第1回の全サンプルの場合と第5回回答者に限った場合を比べると、第5回のみの方が中学校卒の割合が低く、短大卒者の割合が高くなっている。第5回では在学中の女性が少なく、第1回調査時点で学生だった回答者が減っていることがうかがえる。就業状況では、第5回では第1回より仕事についている女性が少なく、家事に従事している人が多い。就業者の職業を見ると、第5回の方が専門的・管理的仕事につく女性が多く、事務・販売・サービス職の女性は少ない。配偶者の有無では、第5回の方が配偶者のいる女性が多い。

子ども観では、第5回の方が子どもの便益を感じている人が有意に多く、継続者に子ども・子育てにプラスのイメージを持つ人が多いという偏りがみられる。ただし、子どもを持つ人についてみると、熱心さの裏返しに、子育て負担感を感じている人の割合も第5回の方が多い。

親との同別居では、第5回の方が配偶者の父母と同居している女性の割合が多い。

上記の分析から、回を重ねることでサンプルのゆがみが大きくなっていくことがみえる。そのゆがみは、主として、年齢、配偶関係、子どもの有無や親との同居状況などの世帯構成就業状況等の面で生じている。具体的には、理想的なサンプルに比べると、年齢が高い、結婚をしている、子どもを持っている、子どもの数が多い、配偶者の親と同居している、仕事に就いていないといった属性をもつ女性の割合が多くなっている。また、結婚していない人の中では、同棲している人が少なくなっていく傾向が、また就業している人の中では、専門職・管理的仕事の人が多く、逆に事務・販売・サービス職の人が少なくなっていく傾向がみられた。

表4 理想の調査と現実の調査の比較：連続変数

変数	第1回調査 (参考)		第3回調査					第5回調査						
			第3回回答		検定	第3回回答(復活・脱落サンプル除く)		検定	第5回回答		検定	第5回回答(復活・脱落サンプル除く)		検定
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		平均値	標準偏差		平均値	標準偏差		平均値	標準偏差	
出生年月(西暦)	1974.4	4.3	1974.3	4.3	**	1974.3	4.3	***	1974.2	4.3	***	1974.1	4.3	***
月齢	335.5	51.9	336.9	51.9	**	337.2	52.0	***	338.2	52.1	***	338.9	52.0	***
入院期間(月)	1.7	3.1	1.7	3.0		1.7	3.0		1.5	2.8		1.6	2.9	
就職年(西暦)	1998.6	3.6	1998.5	3.7		1998.6	3.7		1998.5	3.7	*	1998.5	3.7	*
勤続月数	45.9	44.2	46.8	44.7		46.7	44.7		47.4	45.2	*	47.3	45.1	*
1週間の就業時間	35.0	15.6	35.1	15.5		35.1	15.6		35.0	15.5		35.0	15.5	
1週間の勤務日数	4.9	1.0	4.9	1.0		4.9	1.0		4.9	1.0		4.9	1.0	
通勤時間(片道・分)	30.7	26.9	30.4	27.4		30.4	27.2		29.8	26.8	**	29.9	27.1	*
配偶者の出生年月(西暦)	1969.3	4.9	1969.2	4.8		1969.1	4.8	*	1969.0	4.8	***	1968.9	4.8	***
配偶者の月齢	397.0	58.5	398.8	57.8	*	399.2	57.7	**	400.9	57.9	***	401.3	57.7	***
同居開始年(西暦)	1996.5	3.2	1996.4	3.2		1996.4	3.2	*	1996.3	3.2	***	1996.3	3.2	***
同居期間(月)	70.7	38.0	71.9	38.3		72.2	38.3	*	72.8	38.3	***	73.2	38.4	***
希望子ども数	2.21	0.75	2.22	0.75		2.22	0.75		2.23	0.74	*	2.23	0.74	*
平日の家事・育児時間(分)	326.1	358.6	333.5	361.5		334.2	362.4	*	338.2	362.8	**	340.9	363.3	***
休日の家事・育児時間(分)	390.9	379.5	399.3	382.2	*	399.9	382.9	*	405.1	383.5	**	407.7	384.0	***
働いて得た所得(万円)	198.8	163.3	198.4	159.7		198.0	160.3		198.6	163.3		198.6	165.7	
0を含む就労所得(万円)	195.5	163.9	194.9	160.4		194.5	161.0		195.1	163.9		194.9	166.4	
その他の所得(万円)	40.2	52.3	36.3	48.9	**	36.3	49.0	*	34.5	45.6	***	34.9	46.2	***
0を含むその他の所得(万円)	5.8	24.4	5.3	22.6		5.3	22.7		5.1	21.4	*	5.2	21.8	*
0を含む合計所得(万円)	139.3	163.2	138.6	160.2		138.4	160.6		138.4	162.2		137.8	163.7	
支出額(千円)	417.3	779.2	405.5	754.6		402.7	752.9		391.7	729.8		387.2	730.3	***
保育料(千円)	68.0	144.2	66.1	142.5		66.3	143.7		65.4	134.2		64.8	134.3	
子どもの教育費(千円)	54.9	127.1	53.2	123.1		53.2	123.5		52.0	118.7		51.7	119.5	
同居人数	2.94	1.73	3.04	1.71	***	3.06	1.70	***	3.10	1.72	***	3.12	1.71	***
第1子出生年月(西暦)	1996.9	3.5	1996.9	3.5		1996.9	3.5		1996.8	3.5		1996.8	3.5	*
第1子月齢	71.6	37.2	72.1	37.3		72.3	37.3		72.7	37.1		73.0	37.1	
第2子出生年月(西暦)	1998.2	3.1	1998.2	3.0		1998.2	3.0		1998.2	3.0		1998.1	3.0	
第2子月齢	60.0	31.7	59.9	31.4		59.9	31.3		59.8	31.1		60.0	31.1	
第3子出生年月(西暦)	1998.8	3.1	1998.8	2.9		1998.8	2.9		1998.9	2.8		1998.9	2.9	
第3子月齢	53.6	24.6	53.8	24.5		53.5	24.3		52.6	24.1		52.9	24.3	
第4子出生年月(西暦)	1999.7	2.3	1999.7	2.4		1999.8	2.3		1999.9	2.4		1999.9	2.4	
第4子月齢	46.3	26.2	46.8	27.3		45.9	27.3		47.9	28.1		47.9	28.1	
子ども数	0.56	0.91	0.60	0.93	***	0.60	0.94	***	0.63	0.95	***	0.64	0.96	***
就学前の子ども数	0.41	0.72	0.44	0.74	***	0.44	0.74	***	0.46	0.75	***	0.46	0.75	***
標本数(n)	14,150		10,790			10,510			9,189			8,556		

注)有意水準 \*\*\*>.001、\*\*>.01、\*>.05。

表5 理想の調査と現実の調査の比較：離散変数

変数	第3回調査				第5回調査				
	第1回調査 (参考)	第3回 回答	検 定	第3回回答 (復活・脱落 サンプル除く)	検 定	第5回 回答	検 定	第5回回答 (復活・脱落 サンプル除く)	検 定
	%	%		%		%		%	
最終学歴									
大学・大学院	19.7	19.3		19.3		19.4		19.3	
短大・大学・大学院	42.1	42.7		42.7		43.2	*	43.1	
中学校	3.6	3.4		3.4		3.3	*	3.3	*
短大	22.4	23.3	*	23.3	*	23.7	**	23.8	**
卒業・在学の別：在学中	9.3	8.8		8.7		8.6	*	8.3	**
1年間の入院・通院									
平成13年11月～14年10月に通院した	8.5	9.0		9.0		9.2	*	9.2	*
平成13年11月～14年10月に入院した	3.4	3.3		3.3		3.5		3.5	
通院・入院はしていない	84.4	85.1	*	85.0		84.9		84.8	
就業の状況									
現在、仕事についている(休業含む)	71.7	71.3		71.3	**	70.9	**	70.6	*
家事に従事している	21.3	22.1	*	22.2		22.6	**	23.0	***
通学している	3.7	3.5		3.4		3.4		3.4	
複数の仕事についている	8.0	7.8		7.9		7.9		8.0	
就業形態									
正規の職員・従業員	48.0	48.3		48.2		48.4		48.3	
自家営業・内職	4.7	5.0		5.0		5.2		5.4	*
雇用保険の加入：雇用保険あり	66.7	67.1		67.0		67.4		67.5	
従業員規模：従業員30人未満	35.7	35.4		35.7		35.4		35.6	
職業									
専門的・管理的仕事	23.9	24.4		24.5		24.8		25.1	*
事務、販売、サービス	62.9	62.1		62.0		61.4	*	61.1	**
就業希望									
就業希望あり	56.7	56.7		56.5		56.7		56.5	
正規の職員・従業員希望	21.2	20.8		20.6		19.7		19.5	
就職活動をしている	47.4	46.6		46.4		45.9		45.7	
配偶者の有無									
配偶者あり	38.4	40.0	***	40.1	***	41.4	***	41.9	***
異性の恋人と同居	2.3	1.8	**	1.7	***	1.7	**	1.6	**
配偶者と同居：同居している	98.9	99.1		99.1		99.1		99.1	
配偶者の家事・育児									
配偶者は家事・育児をする	68.5	68.8		68.6		69.1		68.9	
配偶者の家事・育児は非常に助かる	50.2	49.8		49.7		49.8		49.2	
結婚意欲									
絶対したい	32.7	32.3		32.4		32.6		32.7	
絶対・なるべくしたい	67.3	67.8		67.8		67.9		67.9	
考えていない	23.2	23.0		22.9		22.5		22.5	
結婚後の就業継続：仕事を続ける	38.0	37.9		38.0		38.6		38.4	
結婚と仕事について									
結婚相手や家族が結婚後の退職を望む	2.9	2.5		2.5		2.4	*	2.3	*
会社に結婚後働き続けにくい雰囲気がある	8.8	9.1		9.1		9.1		9.2	
上記のようなことはない	82.4	82.7		82.7		83.1		83.0	
夫妻の役割分担に対する意識									
世帯の収入：夫妻が同等に責任をもつ	36.9	36.7		36.4		36.9		36.4	
家事：夫妻が同等に責任をもつ	49.4	48.9		48.8		48.6		48.2	*
育児：夫妻が同等に責任をもつ	88.8	89.2		89.2		89.3		89.4	
子ども観									
家族の結びつきが深まる	73.0	74.3	**	74.3	**	75.0	***	75.0	***
子どもとのふれあいが楽しい	71.3	72.6	**	72.5	**	73.0	***	73.1	***
仕事に張り合いが生まれる	22.5	22.7		22.7	**	22.7		22.7	
子育てを通じて自分の友人が増える	33.4	34.6	**	34.7		35.5	***	35.7	***
子育てを通じて人間的に成長できる	68.9	70.3	**	70.4	***	70.5	***	70.6	***
老後の生活の面倒をみてもらえる	8.8	9.0		9.0		9.1		9.2	
子育てによる心身の疲れが大きい	29.3	29.5		29.4		29.6		29.6	
子育てで出費がかさむ	46.2	47.0		47.0		47.0		46.9	
自分の自由な時間がもてなくなる	56.2	57.1		57.1		57.4		57.4	*
仕事が十分にできなくなる	25.5	25.7		25.5		25.9		25.9	
子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	4.1	3.9		3.9		3.8		3.8	
社会から取り残されたような気になる	6.3	6.4		6.4		6.5		6.5	
子どもにどのように接すればよいかわからない	7.3	7.4		7.5		7.5		7.5	
その他	2.1	2.0		2.0		1.7	***	1.7	**
その他カッコ内に記入あり	2.1	2.0		2.0		1.7	***	1.7	**
子どもを持つ意欲									
絶対欲しい	27.7	27.3		27.2		27.0		26.8	
絶対欲しい・欲しい	60.9	60.5		60.4		60.2	*	59.8	*
どちらとも言えない	23.1	23.2		23.3		23.2		23.4	

(表5つづき)

変数	第3回調査						第5調査		
	第1回調査 (参考)	第3回 回答	検 定	第3回回答 (復活・脱落 サンプル除く)	検 定	第5回 回答	検 定	第5回回答 (復活・脱落 サンプル除く)	検 定
出産後の就業継続									
出産後も続ける	31.6	31.9		31.9		33.0		33.0	*
考えていない	43.2	43.0		42.9		41.9		41.8	*
出産と仕事について									
配偶者や家族が出産退職を望む	5.3	5.1		5.0		5.0		5.0	
会社に出産後働き続けにくい雰囲気がある	14.2	14.4		14.3		14.4		14.5	
上記のようなことはない	70.8	71.1		71.2		71.3		71.2	
前年の所得の有無:あり	71.6	71.4		71.5		71.2		70.9	
働いて得た所得の有無:あり	69.2	69.1		69.1		68.8		68.6	
その他の所得の有無:あり	10.7	10.7		10.8		10.9		10.9	
児童手当受給の有無:あり	74.6	76.2		76.2		76.8		77.3	
保育料支出の有無:あり	38.8	38.4		38.2		38.4		38.0	
子どもの教育費支出の有無:あり	65.7	66.4		66.7		67.6	*	68.2	**
他の家族との支出区別:できる	72.9	73.6		73.7		73.6		73.6	
親との同別居		0.0							
自分の父親と同居	47.4	48.4	*	48.6	*	48.5	*	48.4	
自分の母親と同居	52.2	53.2		53.4	*	53.0		53.0	
配偶者の父親と同居	18.6	20.3	**	20.5	***	21.3	***	21.4	***
配偶者の母親と同居	22.1	24.2	***	24.5	***	25.4	***	25.5	***
第1子の状況									
性別:女	48.7	49.0		49.0		48.8		49.3	
同居している	99.1	99.3		99.3		99.4		99.4	
平日の日中に世話をしている者:自分	46.0	45.8		45.7		45.5		45.1	
平日の日中に世話をしている者:配偶者	4.7	4.4		4.3		4.5		4.3	
平日の日中に世話をしている者:自分の父	2.2	2.1		2.1		2.2		2.1	
平日の日中に世話をしている者:自分の母	6.4	6.4		6.2		6.5		6.5	
平日の日中に世話をしている者:配偶者の父	2.2	2.5		2.5		2.6		2.6	
平日の日中に世話をしている者:配偶者の母	5.2	5.6		5.6		6.0	*	6.0	*
平日の日中に世話をしている者:その他	18.8	18.8		18.7		18.8		18.7	
第2子の状況									
性別:女	47.3	47.3		47.5		47.6		47.7	
同居している	99.0	99.2		99.1		99.2		99.2	
平日の日中に世話をしている者:自分	54.2	54.7		54.7		55.1		55.1	
平日の日中に世話をしている者:配偶者	4.7	4.6		4.5		4.7		4.6	
平日の日中に世話をしている者:自分の父	2.1	2.2		2.2		2.4		2.4	
平日の日中に世話をしている者:自分の母	5.5	5.5		5.4		5.7		5.6	
平日の日中に世話をしている者:配偶者の父	3.2	3.7		3.7		3.6		3.6	
平日の日中に世話をしている者:配偶者の母	7.3	8.0		7.9		8.3		8.3	
平日の日中に世話をしている者:その他	20.4	20.1		20.3		20.2		20.2	
第3子の状況									
性別:女	50.3	50.5		50.1		51.0		50.1	
同居している	99.0	99.3		99.3		99.5		99.4	
平日の日中に世話をしている者:自分	58.3	58.2		58.4		58.7		58.4	
平日の日中に世話をしている者:配偶者	5.4	5.3		5.5		5.0		5.0	
平日の日中に世話をしている者:自分の父	1.5	1.6		1.6		2.0		1.8	
平日の日中に世話をしている者:自分の母	4.6	3.8		3.8		4.6		4.1	
平日の日中に世話をしている者:配偶者の父	3.1	3.6		3.2		3.5		3.2	
平日の日中に世話をしている者:配偶者の母	8.3	8.7		8.7		9.3		9.4	
平日の日中に世話をしている者:その他	24.9	25.5		25.9		26.3		26.9	
第4子の状況									
性別:女	47.0	48.3		49.1		48.0		48.0	
同居している	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
平日の日中に世話をしている者:自分	61.2	63.8		63.2		64.0		64.0	
平日の日中に世話をしている者:配偶者	9.0	10.3		10.5		10.0		10.0	
平日の日中に世話をしている者:自分の父	1.5	1.7		1.8		2.0		2.0	
平日の日中に世話をしている者:自分の母	9.0	6.9		7.0		6.0		6.0	
平日の日中に世話をしている者:配偶者の父	1.5	1.7		1.8		2.0		2.0	
平日の日中に世話をしている者:配偶者の母	11.9	13.8		14.0		14.0		14.0	
平日の日中に世話をしている者:その他	23.9	20.7		21.1		22.0		22.0	
子育て負担感:あり	57.1	56.8		56.8		56.4		56.5	
子どもの有無:あり	32.1	34.2	***	34.3	***	35.7	***	36.2	***
就学前の子どもの有無:あり	28.1	30.1	***	30.2	***	31.3	***	31.8	***
標本数	14,150	10,790		10,510		9,189		8,556	

注)有意水準 \*\*\*&gt;.001、\*\*&gt;.01、\*&gt;.05。

## 5. 不詳回答と脱落の関連

最後に、不詳回答と脱落の関連を見てみよう。予想される結果とはいえ、第1回から第3回・第5回の間には脱落したサンプルは、全般的に継続者より不詳の割合が高い。脱落サンプルにおいて、継続サンプルより2倍以上不詳の割合が高いものとしては、学歴、就業状況、結婚意欲、夫妻の役割分担（収入・家事・育児の夫妻の責任分担についての意識）、子どもを持つ意欲の4項目が該当する。また、出生や同居等の年月や、家事・育児時間、希望子ども数、所得・支出額、同居人数など具体的な数字を記入する箇所も、不詳の場合は、その後の調査での脱落が多い。特に、希望子ども数、家事・育児時間、支出額、親との同別居は脱落サンプルで第1回調査時の不詳割合がかなり高く、15～36%に及ぶ。これらの項目の不詳割合は他に比べると高めではあるが、継続サンプルでは10～25%程度に留まっている。

不詳回答は、具体的な年月が思い出せなかったり、回答に迷ったりする場合に発生する。数字を記入させる設問が多いと、手間のかかる面倒な調査という印象が持たれ、次回の脱落を促す結果になっていると考えられる。また、結婚意欲や子どもを持つ意欲の不詳が継続サンプルより脱落サンプルで有意に多いなどの結果から、結婚や子どもを持つことにあまり興味がない・考えたことがない女性はこの調査自体への興味関心が湧かず、第2回以降に脱落したという可能性も推測される。

表6 第1回調査における不詳回答の割合と継続・脱落の分析

変数	第1回調査 (参考)	第1~3回継続の有無別			第1~5回継続の有無別		
		3回全て 回答	脱落1)	検 定	1~5回 全て回答	脱落2)	検 定
学歴(不詳)	1.6	0.8	3.8	***	0.7	2.9	***
卒業・在学別(不詳)	13.6	12.5	16.5	***	12.0	16.0	***
入院年(不詳)	7.6	7.1	8.8		7.0	8.6	
入院月(不詳)	7.6	7.1	8.8		7.0	8.6	
退院年(不詳)	7.6	7.1	8.8		7.0	8.6	
退院月(不詳)	7.6	7.1	8.8		7.0	8.6	
就業状況(不詳)	2.8	2.0	5.3	***	1.8	4.4	***
複数の仕事有無(不詳)	3.9	3.6	4.7	*	3.5	4.5	*
就業形態(不詳)	1.9	1.8	2.3		1.6	2.4	**
雇用保険(不詳)	13.9	13.7	14.4		14.0	13.7	
従業員数(不詳)	6.7	6.5	7.2		6.3	7.3	
職業(不詳)	3.5	3.3	3.9		3.2	3.8	
就職年(元号)(不詳)	4.8	4.4	5.8	**	4.2	5.7	***
就職年(不詳)	4.8	4.4	5.8	**	4.2	5.7	***
就職月(不詳)	4.8	4.4	5.8	**	4.2	5.7	***
一週間就業時間(不詳)	5.3	4.9	6.5	**	4.8	6.1	**
勤務日数(不詳)	3.4	3.2	4.0		3.1	3.9	*
通勤時間(時)(不詳)	4.4	4.2	5.2	*	4.1	5.0	*
通勤時間(分)(不詳)	4.4	4.2	5.2	*	4.1	5.0	*
就業希望の有無(不詳)	3.1	3.1	3.3		3.2	3.1	
希望就業形態(不詳)	1.9	1.9	1.7		1.9	1.8	
就職活動の有無(不詳)	0.8	0.9	0.4		0.9	0.6	
配偶者の有無(不詳)	5.9	4.8	9.1	***	4.9	7.4	***
配偶者生年(不詳)	0.4	0.3	0.7		0.2	0.7	*
配偶者生月(不詳)	0.4	0.3	0.7		0.2	0.7	*
同居開始元号(不詳)	8.2	6.9	12.7	***	6.5	11.4	***
同居開始年(不詳)	8.2	6.9	12.7	***	6.5	11.4	***
同居開始月(不詳)	8.2	6.9	12.7	***	6.5	11.4	***
異性の恋人との同居(不詳)	6.2	5.6	7.8	***	5.1	7.6	***
配偶者との同居(不詳)	0.3	0.1	1.2	***	0.1	0.8	***
配偶者家事育児(不詳)	5.6	5.2	7.2	*	4.8	7.3	***
家事育児負担軽減(不詳)	1.2	1.0	1.9		1.0	1.4	
結婚意欲(不詳)	1.5	1.0	2.7	***	0.8	2.3	***
結婚後就業継続(不詳)	2.8	2.5	3.7	*	2.5	3.3	
世帯運営観(収入)(不詳)	3.7	2.5	7.3	***	2.4	5.8	***
世帯運営観(家事)(不詳)	4.5	3.1	8.3	***	3.0	6.8	***
世帯運営観(育児)(不詳)	4.5	3.2	8.3	***	3.0	6.8	***
子どもを持つ意欲(不詳)	5.4	3.9	9.7	***	3.5	8.2	***
希望子ども数(不詳)	16.7	15.6	20.2	***	14.6	20.0	***
出生後就業(不詳)	7.2	7.1	7.7		7.0	7.6	
平日家事時間(時)(不詳)	26.9	24.5	33.7	***	22.8	33.0	***
平日家事時間(分)(不詳)	26.9	24.5	33.7	***	22.8	33.0	***
休日家事時間(時)(不詳)	27.0	24.6	33.9	***	22.8	33.2	***
休日家事時間(分)(不詳)	27.0	24.6	33.9	***	22.8	33.2	***

(表6 つづき)

変 数	第1回調査 (参考)	第1～3回継続の有無別			第1～5回継続の有無別		
		3回全て 回答	脱落1)	検 定	1～5回 全て回答	脱落2)	検 定
		%	%	%	%	%	
所得の有無(不詳)	7.9	6.8	11.1	***	6.4	10.2	***
働いて得た所得有無(不詳)	6.0	5.4	7.8	***	5.1	7.6	***
働いて得た所得(額)(不詳)	3.9	3.4	5.2	***	3.0	5.2	***
その他所得有無(不詳)	5.5	5.0	6.9	***	4.6	6.8	***
その他所得金額(不詳)	5.1	5.2	4.7		5.0	5.3	
児童手当有無(不詳)	7.8	8.0	6.8		7.5	8.4	
支出額(不詳)	29.7	27.1	37.3	***	25.6	36.0	***
保育料の有無(不詳)	10.0	9.6	11.7		9.5	11.3	
保育料(不詳)	1.9	1.9	1.8		2.2	1.2	
教育費の有無(不詳)	7.0	6.8	8.0		6.3	8.8	**
教育費(不詳)	1.1	1.1	0.9		1.2	0.8	
同居人数(不詳)	8.2	6.7	12.6	***	6.2	11.2	***
父親との同別居(不詳)	13.4	11.4	19.1	***	10.7	17.5	***
母親との同別居(不詳)	13.4	11.4	19.1	***	10.7	17.5	***
配偶者父親との同別居(不詳)	12.6	11.7	15.9	***	11.1	15.5	***
配偶者母親との同別居(不詳)	12.3	11.3	15.7	***	10.7	15.5	***
第1子出生年元号(不詳)	0.9	0.8	1.5		0.7	1.4	*
第1子出生年(不詳)	0.9	0.8	1.5		0.7	1.4	*
第1子出生月(不詳)	0.9	0.8	1.5		0.7	1.4	*
第1子同居別居(不詳)	17.3	16.9	18.5		16.8	18.2	
第2子出生年元号(不詳)	1.4	1.3	2.0		1.3	1.8	
第2子出生年(不詳)	1.4	1.3	2.0		1.3	1.8	
第2子出生月(不詳)	1.4	1.3	2.0		1.3	1.8	
第2子同居別居(不詳)	20.5	20.4	21.1		20.3	21.0	
第3子出生年元号(不詳)	1.1	1.0	1.7		0.9	1.7	
第3子出生年(不詳)	1.1	1.0	1.7		0.9	1.7	
第3子出生月(不詳)	1.1	1.0	1.7		0.9	1.7	
第3子同居別居(不詳)	19.4	19.2	20.2		20.1	17.6	
第4子出生年元号(不詳)	7.5	7.0	10.0		4.0	17.6	
第4子出生年(不詳)	7.5	7.0	10.0		4.0	17.6	
第4子出生月(不詳)	7.5	7.0	10.0		4.0	17.6	
第4子同居別居(不詳)	17.9	17.5	20.0		16.0	23.5	
子育て負担感(不詳)	1.6	1.6	1.6		1.4	1.9	

注)有意水準 \*\*\* >.001、\*\*>.01、\*>.05。

## 6. まとめと脱落防止の対処について

本稿では、「21世紀成年者縦断調査」の女性票を取り上げ、第5回までの回収・脱落率の推移と、サンプル脱落が特定の属性を持つサンプルに偏って発生していないかどうかについて検討を行った。

回収状況では、毎回の調査回収率は8～9割を超える高率を維持しているものの、累積脱落率は第5回調査の時点で49.2%に達し、全5回の継続回答者は第1回調査客体数の半数程度となっている。そこで、脱落サンプルと継続サンプルではどの変数で平均値または確

率分布の差が有意となっているか検証したところ、年齢が高い、有配偶、高学歴、子ども有、本人や配偶者の親と同居している、家事・育児に費やす時間が長いといった属性に該当する女性が継続者として残り、無配偶、同棲している、低学歴（中学校卒）、子どもなし、仕事を持っているという女性が脱落しやすい傾向にあるようであった。また、第1回調査の不詳回答とその後の継続・脱落について検証したところ、具体的に数字を記入する項目（年月や家事・育児時間、希望子ども数、所得・支出額、同居人数など）や、学歴、就業状況、結婚意欲、夫妻の役割分担に対する意識（収入・家事・育児の夫妻の責任分担についての意識）、子どもを持つ意欲の項目で、脱落サンプルは第1回時の不詳割合が有意に高かった。

第5回までこの調査を行ってきたが、第1回に調査客体として抽出されたサンプルのうち約半数が脱落しており、第1回調査時点で配偶者や子どものいる人、もともと結婚や出産に関心がある人、どちらかといえば時間的に余裕のある生活をしている人が、調査回答者として残っていく傾向が見いだされた。逆に、調査から脱落するのは、所得の多寡や就業の有無の問題よりも、年齢の若い層であったり、学生であったり、無配偶だったり子どもがいなかったりなど、現在の生活が結婚・出産という本調査のテーマにかかわりないか、あまり興味が無い層に偏ってきているようである。また、子育てに関して孤独感を感じている・予想している、調査項目では挙げていない何かを感じている人の方が脱落をしている。21世紀成年人縦断調査の目的のひとつが、人々が結婚や出生にいたりいたりなかったりする要因や子育ての経験を探ることであるとすれば、結婚していない人や子どもを持たない人、子育てに孤独感をもっている人などが多く調査から脱落し、結婚し、子どもを持つといういわゆる規範的でもっとも社会的に承認されているライフコースをたどっている人や子どもの便益を感じている人に偏っていくことは、これらのテーマを分析する際に問題となる可能性がある。

データのゆがみが調査テーマの鍵を握る事項で生じていることを踏まえると、脱落現象はどの縦断調査でも起こることで、ある程度はやむを得ないとは言え、今後の調査においては、これ以上のサンプル脱落を防ぐための工夫をしていくことが重要である。不詳と脱落の関連の分析で見られたように、数字を回答する項目は記入負担が重く、次回調査以降の脱落を促す可能性が高い。脱落を防ぐ対策として、これらの項目を偶数回ないし奇数回のみでたずねる形式にしたり、選択肢を用意して丸をつける形式にしたりすることも考えられる。また、福田（2008）が指摘するように、転居者へのフォローアップを充実させて脱落を防ぐことも有用だろう。

不詳の多い項目については、調査票の形式面で、回答のしにくさがないか検討することも重要である。例えば、不詳の割合が高い「希望子ども数」の場合、第1回～第5回では不詳割合に差が見られる。第1回、第4回、第5回で不詳割合が高く、第2回、第3回では低い。これは、この項目の記入形式の違いによるものと見られる（図1）。

第1・4・5回のような形式の場合、希望子ども数記入欄は、子どもを持つ意欲の枝設問



となっているので、意欲の項目への回答に迷うと、それに続く希望子ども数も無回答になったり、希望子ども数記入欄を見落とししたり、「どちらとも言えない」「あまり欲しくない」と答えた後に具体的な子ども数を書くことへの矛盾感が生じたりして、無回答が増える可能性があると考えられる。また、希望子ども数が数字で記入する形式になっていることは、子どもは持ちたいが具体的な数は不明な場合、「わからない」「決めていない」という回答はできないので、やはり無回答になる可能性が高い。この場合、希望子ども数と子どもを持つ意欲を別の設問にしたり、希望子ども数は人数を書かせるのではなく、0人～5人以上・わからない（考えていない）という選択肢を用意し、番号に○をつける形式に変えたりする工夫が考えられる。

さらに、こうした調査票の記入形式の改善を行うのに並行して、将来的にはサンプルの追加も検討する必要があるだろう。

本稿では、第5回調査までの女性票についての脱落傾向を分析したが、ここで行なったような、脱落によるサンプルの偏りの傾向の分析は、今後も定期的に行なうことが重要であると考えられる。たとえ「修正」が難しいものであっても、脱落によってサンプルにどのようなバイアスが生じているのかを理解することで、本データを用いたさまざまなテーマに関する分析結果の解釈や一般化の試みの際の留意点を検討することは可能であろう。また、今回は各項目単独での分析に留めたが、脱落のメカニズムやその要因を理解するには、項目間の相互関係も考慮した分析を行なう必要があるだろう。たとえば、家事・育児時間の少ない人の方が脱落しやすいという傾向については、配偶関係、世帯構成（親との同別居の状態）、子どもの有無や数、子どもの年齢、就業の状況などとの関連性を同時に分析することが必要である。また、先にも述べたが、所得や支出額等、経済状況についても世帯規模や家族構成等を考慮にいれて分析することが望ましいと思われる。

なお、ここでは女性票のみを分析したが、次年度以降は、男性票および男女のペアのサンプルについても同様の分析を行う予定である。

**表7 調査回、配偶者有無別にみた、希望子ども数不詳の割合**

調査回		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
不詳割合 (%)	有配偶	10.3	1.6	1.6	8.1	7.7
	無配偶	21.6	7.2	9.1	21.7	17.9

図1 希望子ども数の記入形式の違い

【第1回】

問9 子どもが(もう1人)欲しいと思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1 絶対欲しい	(すでにいる子どもも含めて)全部で何人欲しいですか。 <input type="text"/> <input type="text"/> 人 補問9-1、9-2については、所得を伴う仕事がある方のみお答えください。現在休業中(育児休業、介護休業など)の方も含みます。それ以外の方は問10へお進みください。
2 欲しい	
3 どちらとも言えない	
4 あまり欲しくない	
5 絶対欲しくない	

→ 問10へお進みください

【第4回】【第5回】

問15 子どもが(すでにいる場合は、もう1人)欲しいと思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1 絶対欲しい	全部で何人欲しいですか。(すでにいるお子さんも含めてください。) <input type="text"/> <input type="text"/> 人
2 欲しい	
3 どちらとも言えない	
4 あまり欲しくない	
5 絶対欲しくない	

【第2回】【第3回】

問11 あなたは、全部で何人のお子さんを欲しいと思いますか。すでにいらっしゃる場合は、そのお子さんも含めた人数を記入してください。

人

引用文献

福田節也(2006)「21世紀出生児縦断調査における脱落要因の分析」金子隆一編、厚生労働科学研究費補助金統計情報高度利用総合研究事業『パネル調査(縦断調査)のデータマネジメント方策及び分析に関する総合的システムの開発研究』平成16~17年度総合研究報告書。

福田節也(2008)「『21世紀成年者縦断調査』を用いた初婚の要因分析：ネステッド・ロジットモデルによる初婚と脱落の競合ハザード分析」金子隆一編、厚生労働科学研究費補助金統計情報総合研究事業『パネル調査(縦断調査)に関する総合的分析システムの開発研究』平成19年度総括研究報告書。

西野淑美(2006)「21世紀出生児縦断調査における脱落・居住地移動・復活サンプルの分析」金子隆一編、厚生労働科学研究費補助金統計情報高度利用総合研究事業『パネル調査(縦断調査)のデータマネジメント方策及び分析に関する総合的システムの開発研究』平成16~17年度総合研究報告書。

断調査)のデータマネジメント方策及び分析に関する総合的システムの開発研究』平成16～17年度総合研究報告書。

樋口美雄・太田清・新保一成(2006)『入門 パネルデータによる経済分析』日本評論社。

坂本和靖(2006)「サンプル脱落に関する分析:「消費生活に関するパネル調査」を用いた脱落の規定要因と推計バイアスの検証」『日本労働研究雑誌』No.551。

---

i データを詳しくみると、第1回では回答していないが、第2回以降初めて調査に回答している女性もいる(424人)。厚生労働省統計情報部によって作成されている調査報告書においては、第1回から継続して調査に参加している人のみを集計しているため、これらのケースがあっても集計結果には影響していないが、調査の回収状況や脱落を把握する観点からはこれらのケースの背景も分析することが望ましいと思われる。今後の課題としたい。

ii 回答が3つ以上の選択肢に分かれている項目についても、結果の解釈のしやすさを重視して、2つのカテゴリーに再コード化して分析を行った。その際、必ずしもすべてのカテゴリーのダミー変数を作成するのではなく、学歴や職業等については、いくつかのグループ分けを試みた。したがって、「短大卒」「短大・大学・大学院卒」といったように「短大卒」のカテゴリーが複数回リストされていることもある。この場合は、「短大・大学・大学院卒」という高学歴層とそうでない層との比較に加え、「短大卒」というグループと大学卒を含む他の層との比較を行っている。

## 【成年者調査】

### 7 21世紀成年者縦断調査（第1回～第5回）における 男性票の脱落者・継続回答者の特性に関する分析

釜野 さおり

#### はじめに

本稿は、平成20年度の本プロジェクトにおいてまとめた、「21世紀成年者縦断調査（第1回～第5回）における女性票の脱落者・継続回答者の特性に関する分析」（守泉・釜野，2009）と同様の分析を、男性票についておこなった結果をまとめたものである。したがって、分析の目的や背景は女性票の分析と同様であるため、ここでは概略のみを述べておく。

「成年者縦断調査」は、2002年10月末時点において20～34歳の男女およびその配偶者を対象とし、結婚・出産・就業・家族形成に関する意識等の経年変化を調べる目的で行われてきた。

周知のとおり、パネル調査は、同一の個人を繰り返し調査する方法をとるため、一時点の調査である横断調査にはない情報を含んでいる。従属変数が説明変数より時間的に先行している事項については因果関係を明らかにすることができる、ある変動についての年齢効果、時代効果、コーホート効果を識別したりする（樋口ほか 2006）ことが可能である。

しかし一方で、同一個人を追跡するためにデータの蓄積に時間がかかり、管理にも費用がかかる。同じ人が何度も同じような調査を受けることで「回答慣れ」してしまい、データにゆがみが出る可能性も指摘されている（樋口ほか 2006）。さらに、パネル調査では、回を重ねるにつれて転居で追跡できなくなったり、回答を拒否されたり等の理由で、サンプルが脱落し続けることを避けることができない。この脱落がランダムに発生するのであれば問題は生じないが、例えば年齢の若い人や結婚していない人が脱落しやすいなどの偏りがあると、調査データの母集団に対する代表性が徐々に失われ、推計結果もバイアスを持つてしまう危険がある。

本稿はこのようなパネル調査の問題点をふまえ、第1回（2002年）～第5回（2006年）までの成年者縦断調査5年分のデータについて、回収状況を確認し、脱落および継続サンプルの特性を検証することを目的としている。平成21年度に行った女性票の分析に続き、男性票について分析を行う。

#### 1. 成年者縦断調査・女性票の脱落の状況

表1は、成年者縦断調査男性票の回収・脱落状況をまとめたものである。第1回調査（2002年）では、平成13年国民生活基礎調査の調査地区から無作為抽出した1,700地区内に居住する20～34歳の男女およびその配偶者を調査対象者とした。この時点で、男性票の調査客体数は16,725人であり、回収数は13,743票、回収率は81.0%であった。

第2回調査では、調査客体数が14,809人であり、第1回と比べて2,155人減少している。

以後、調査客体数は回を追うごとに減少しているのは、2回続けて回答がない場合（調査票を受け取ったが返却しなかったケース）、白紙（無記入票）を提出された場合、あるいは転居先が不明の場合にはその次の回で、そのサンプルは調査票配布の対象から除外されるためである<sup>1</sup>。

脱落率（前年調査の回答者のうち、当該年の調査で回答しなかった人の割合）をみると、第2回 16.6%、第3回 15.0%、第4回 12.3%、第5回 11.0%と減少している。パネル調査の特徴として、調査に協力的でないサンプルが徐々に抜け落ち、協力的な対象者が残っていくため、回を重ねるごとに回収率は上がることが知られている。しかし累積脱落率は第5回調査の時点で55.0%であり、第1回の対象者16964人のうち、第5回までのすべての回に回答しているのは7750人（45.7%）で半数に満たない。また第1回調査で回答した男性13743人に限ってみても、すべての回の調査に回答しているのは56.4%である。初回の調査協力者の約半数が脱落していることから、これらの脱落が何らかの属性に偏って起きていないかどうかを検証することが必要である。

表1 成年者縦断調査女性票の回収・脱落状況

調査年 (調査回)	調査 客体数	回収数 <sup>1</sup>	うち前回から の脱落数	うち復活数	回収率(%) (2)/(1)	脱落率(%) <sup>2</sup> (3)/前年回収数	累積脱落率	全調査回 継続回答者数
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
2002年 (第1回)	16,964	13,743	—	—	81.0	—	—	—
2003年 (第2回)	14,809	11,910	2,288	455	80.4	16.6	16.6	11,455
2004年 (第3回)	12,431	10,476	1,788	354	84.3	15.0	31.7	9,812
2005年 (第4回)	10,908	9,509	1,292	348	87.2	12.3	44.0	8,667
2006年 (第5回)	9,749	8,582	1,050	164	88.0	11.0	55.0	7,750

1) 2回目以降については前回の回収数[1]から当該回の脱落数[2]を引き、当該回の復活数[3]を足した数に相当。  
 なお、統計情報部によって公表された回収数と数票となる回もあるが、それは本分析で用いた各回の「単独データ」の票数が確定版ではないためである。  
 2) 前年回収数には復活サンプルを含む。

## 2. 方法

脱落の分析にあたり、本稿では次の2つの検証を行う。

第一に、継続回答者と脱落者の特性の比較として、第1回調査時の回答について、分析可能な項目ごとにその後の継続者と脱落者の回答に有意な差がみられるかを検証する。具体的には、第3回までの継続者と脱落者、第5回までの継続者と脱落者について、それぞれ、連続変数については母平均の差のt検定を行い、離散変数については確率分布の差の $\chi^2$ 検定を行う。これにより差が有意となった項目をみることで、脱落による生じるバイアスについてある程度判断することができる。

第二に、第1回調査の回答について、第1回のサンプル全体と、第3回・第5回の回答

サンプルで平均値や分布に有意な差がみられるかどうか検証する。第1回調査のサンプル全体のデータを「回答者全員が継続回答する理想的な調査」とみなし、これと「実際の回答者に限った現実の調査」(第3回・第5回それぞれまでの継続回答者)を比較することで、脱落によってどの部分にバイアスが出ているか観察する。第1回調査の回答者を母集団として想定し、連続変数についてはt検定、離散変数については $\chi^2$ 検定で、1サンプルによる検定を行う。

### 3. 継続回答者と脱落者の特性の比較

第1回調査の各変数について、第3回および第5回までの継続サンプルと、それまでに脱落したサンプルの回答に有意な差があるか検定したところ、第3回より第5回の継続・脱落状況をみた検定で有意となる項目が多く、かつ同じ項目でも第3回より有意水準が高くなっている傾向が見られた。以下、連続変数と離散変数に分け、有意となった項目のうち、主なものを取り上げて結果を記述する。

表2は継続回答サンプルと脱落サンプルの比較のうち、連続変数についてのt検定の結果を示したものである。

回答者の出生年、月齢、就職年、勤続年数など、年齢に関わる項目では、すべて脱落サンプルの方が継続サンプルよりも平均値が低い。つまり若い人に脱落が多いことを示している。

一週間の勤務日数は継続者の方が長く、通勤時間は脱落サンプルの方が長い。脱落によって、勤務状況による違いが出てくることがわかる。

「同居人数」「子ども数」「就学前の子ども数」は、すべて継続サンプルの方が脱落サンプルより多く、同居家族などの人数が多い人の方が、回答者として残り、逆に同居している人数が少ない人が脱落しやすい傾向を示している。

また、離散変数の部分で述べるが、親との同居割合も継続サンプルで高いので、これも関連しているようである。

休日の家事・育児時間は、脱落サンプルより継続サンプルで平均値が高い。子ども人数が多い男性が多いことに関連していると思われる。

経済的な状況をみると、脱落サンプルの方が継続サンプルよりも、合計所得が低い。また第5回についてのみ、就労所得においても同様の傾向がみられる。「21世紀出生児縦断調査」の脱落要因の分析では、世帯年収が低い層ほど脱落しやすいことが指摘されているが(福田 2006; 西野 2006)、ここでも同様の傾向がみられた。その他の所得(仕送り・財産収入・児童手当等)は、どちらの比較においても脱落サンプルの方が高いが、在学中の学生が受けている(親からの)仕送りであると考えれば、ここでみられる関係性は、学生に脱落が多いためのものである可能性がある。経済状況と脱落・継続の関係については、子ども数、親との同居状況、回答者の年齢などを考慮して、今後、総合的に分析する必要がある。

表2 回答継続サンプルと脱落サンプルの比較：連続変数

変数	第1回調査 (参考)		第1~3回調査継続の有無別				第1~5回調査継続の有無別					
			1~3回全て回答		脱落1)		検定	1~5回全て回答		脱落2)		検定
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
出生年月(西暦)	1974.5	4.3	1974.3	4.3	1974.9	4.2	***	1974.2	4.3	1974.9	4.2	***
月齢	334.7	51.4	336.5	51.6	330.1	50.7	***	338.4	51.6	329.9	50.7	***
入院期間(月)	1.8	3.0	1.8	3.1	1.6	2.8		1.7	3.0	1.8	3.0	
就職年(西暦)	1997.0	4.2	1996.8	4.3	1997.5	4.0	***	1996.7	4.3	1997.5	4.0	***
勤続月数	65.2	51.2	67.5	51.8	59.0	48.8	***	69.4	52.2	59.4	49.0	***
1週間の就業時間	43.9	17.8	44.0	17.5	43.5	18.6		44.2	17.2	43.4	18.6	*
1週間の勤務日数	5.3	0.9	5.3	0.9	5.2	1.0	*	5.3	0.9	5.2	1.0	***
通勤時間(片道・分)	32.4	27.5	31.6	26.1	34.3	31.1	***	31.7	26.4	33.4	29.0	**
希望子ども数	2.153	0.794	2.158	0.810	2.140	0.748		2.166	0.800	2.135	0.785	
平日の家事・育児時間(分)	56.6	90.5	55.6	87.2	59.4	99.4		56.3	88.4	57.1	93.6	
休日の家事・育児時間(分)	173.9	248.7	176.8	250.9	165.8	241.9	*	181.5	253.7	162.8	240.7	***
働いて得た所得(万円)	312.1	220.9	313.9	225.0	307.0	208.7		318.8	228.1	302.3	209.7	***
所得0を含む就労所得(万円)	308.9	222.0	311.4	225.9	302.1	210.6		316.2	228.9	298.3	211.2	***
その他の所得(万円)	39.1	83.6	39.1	210.2	54.8	107.3	***	39.0	228.0	49.8	95.9	***
所得0を含むその他の所得(万円)	8.5	42.1	8.5	99.1	11.8	54.5	***	8.8	109.4	10.1	47.6	***
所得0を含む合計所得(万円)	259.1	231.5	266.6	275.1	242.9	223.0	***	273.8	286.7	241.4	222.8	***
支出額(千円)	495.0	908.3	489.6	902.7	509.2	922.6		484.2	907.7	509.3	909.0	
保育料(千円)	100.3	285.6	97.3	306.4	109.7	207.8		103.1	336.6	95.8	175.2	
子どもの教育費(千円)	111.6	257.5	122.3	451.5	153.5	308.4		118.8	472.8	147.1	323.9	*
同居人数	2.60	1.63	2.77	1.58	2.15	1.68	***	2.83	1.58	2.30	1.65	***
第1子出生年月(西暦)	1997.3	3.4	1997.4	3.2	1997.1	3.7		1997.4	3.2	1997.3	3.7	
第1子月齢	60.3	40.2	59.4	38.9	63.1	44.6		59.9	38.1	60.9	43.9	
第2子出生年月(西暦)	1998.6	2.8	1998.7	2.6	1997.8	3.4		1998.8	2.5	1998.2	3.3	
第2子月齢	45.5	33.3	43.3	30.9	54.1	40.5	*	43.4	29.3	49.7	40.0	
第3子出生年月(西暦)	1999.5	2.4	1999.7	2.5	1999.0	2.3		1999.8	2.0	1998.8	3.0	*
第3子月齢	35.4	29.9	33.7	30.5	40.1	28.2		31.3	24.6	43.3	37.1	
子ども数	0.10	0.43	0.10	0.44	0.08	0.39	***	0.11	0.46	0.08	0.39	***
就学前の子ども数	0.07	0.34	0.08	0.36	0.05	0.30	***	0.08	0.37	0.06	0.30	***
標本数(n)	13,743		9,837		3,906			7,769		5,974		

次に、離散変数の確率分布の比較<sup>(ii)</sup>について $\chi^2$ 検定を行った結果が表3である。

比較を行った結果、有意差が確認されたのは、1年間の入院・通院、学歴、就業状況・職業、配偶者・異性の恋人の有無、子どもの有無と人数、夫妻の役割分担に対する意識、子どもに関する意識の項目である。

1年間の入院・通院については、その経験のある人の方が、脱落する傾向がみられる。

学歴をみると、脱落サンプルでは(短大)・大学・大学院の割合が高く、中学校卒の割合も高い。卒業・在学の別でみると、脱落サンプルでは「在学中」の割合が継続サンプルより多い。就業の状況でも同様に脱落サンプルでは「通学している」人の割合が高い。つまり、学歴の低い人と高い人、そして学生が脱落していることを示している。

就業状況では、自家営業・内職の割合が、継続サンプルで高く、また第1回調査時において就業していない人をみると、継続サンプルの方が、正規の職員・従業員を希望する人の割合が高い。職業では、専門的・管理的仕事の男性の割合は、第3回時点では継続サンプルの方が高いが、第5回までになると違いはみられなかった。一方、事務・販売・サービス業に就いている割合は脱落サンプルが高い。

配偶者の有無では、継続サンプルは脱落サンプルより配偶者のいる割合が高い。一方、

異性の恋人と同居、つまり同棲している男性の割合は脱落サンプルの方が高い。同棲していた人がその後結婚したり、あるいは別れたりしたことをきっかけに調査に協力しなくなる人もいると思われる。

夫妻の役割分担に関する意識では、家事の責任は夫妻平等であるべきと考える男性の割合は脱落サンプルの方が高く、育児での責任分担の項目では、夫婦平等と考える男性の割合は継続サンプルで高い。家事平等意識は共働き世帯で高いと見られるので、女性の就業状況と関連があるのかもしれない。一方、育児平等意識は、女性の就業状況よりも子どもへのかかわり方の意識が関連しており、子どもがいて育児に関心が高い人ほど回答を継続していることと関係している可能性がある。

子ども観は、「家族の結びつきが深まる」から「老後の生活の面倒をみてもらえる」までが子どもの便益を表し、「子育てによる心身の疲れが大きい」から「子どもにどのように接すればよいかわからない」までが子どものコストを表す。おおむね、子どもの便益の項目に○をつけている割合は、脱落サンプルより継続サンプルで高い。しかし、「子育ての出費」や「自由な時間がなくなる」といった項目でも継続サンプルで選択割合が高い。実際に子どもを育てている人もいない人もこれらの質問に回答していることを考慮すると、ここでみられる違いは、子どもの有無によるものではないかと思われる。調査を継続する傾向のある、子どものいる男性は子どものいない男性に比べると、子育てについてより具体的なみかたをするために、子どもの便宜についてもコストについても多く選択する傾向があるのではないかと思われる。

親との同別居についてみると、自分あるいは配偶者の親と同居している割合は継続サンプルの方が高い。連続変数の検定で同居人数の平均値が継続サンプルの方が高かったことと整合的である。第1子と同居している人の割合が脱落サンプルの方で低い。子どもの有無も、就学前の子どもの有無も継続サンプルで「あり」の割合が高いが、子どものいる男性の方が安定した生活を送っていて継続しやすい、あるいはこの調査に興味を持っているので継続する、といった理由が考えられる。

回答継続サンプルと、脱落サンプルの比較をした結果を全体的にまとめてみると、第1回調査の時に有配偶、学生でない、通院入院なし、子どもありといった属性に該当する男性が継続者として残り、高学歴・低学歴、無配偶、異性の恋人と同居している、子どもがいないといった男性が脱落しやすい傾向にあるようである。



表3 回答継続サンプルと脱落サンプルの比較：離散変量

変数	第1回調査	第1~3回継続の有無別			第1~5回継続の有無別		
	(参考)	3回全て	脱落1)	検定	1~5回	脱落2)	検定
	%	%	%		%	%	
最終学歴							
大学・大学院	33.1	32.1	35.6	***	31.4	35.2	***
短大・大学・大学院	36.4	35.5	39.0	***	35.0	38.4	***
中学校	7.3	6.8	8.5	**	6.9	7.9	*
短大	3.3	3.4	3.3		3.5	3.1	
卒業・在学の別：在学中	12.7	11.3	16.5	***	10.3	15.9	***
1年間の入院・通院							
平成13年11月~14年10月に通院した	6.0	6.0	6.1		6.1	6.0	
平成13年11月~14年10月に入院した	3.2	3.2	3.3		3.2	3.2	
通院・入院はしていない	85.5	86.7	82.2	***	86.9	83.6	***
就業の状況							
現在、仕事についている(休業含む)	88.0	88.9	85.7	***	89.7	85.8	***
家事に従事している	0.6	0.6	0.5		0.6	0.5	
通学している	5.7	5.1	7.5	***	4.5	7.4	***
複数の仕事についている	6.9	6.7	7.5		6.5	7.4	
就業形態							
正規の職員・従業員	6.8	6.6	7.2		6.7	6.9	
自家営業・内職	4.5	4.8	3.6	***	5.0	3.7	**
雇用保険の加入：雇用保険あり	78.9	79.6	76.7	**	80.3	76.8	***
従業員規模：従業員30人未満	37.9	38.0	37.5		37.7	38.1	
職業							
専門的・管理的仕事	34.0	34.7	32.3	*	34.7	33.1	
事務、販売、サービス	33.9	32.9	36.8	***	32.0	36.6	***
就業希望							
就業希望あり	68.0	68.7	66.7		69.6	66.5	
正規の職員・従業員希望	45.1	47.8	39.3	*	49.5	40.6	**
就職活動をしている	67.9	69.1	65.3		69.7	66.0	
配偶者の有無							
配偶者あり	30.5	32.3	25.6	***	34.0	25.7	***
異性の恋人と同居	2.1	1.5	3.7	***	1.3	3.2	***
配偶者と同居：同居している	99.5	99.6	99.2		99.6	99.4	
結婚意欲							
絶対したい	26.1	25.3	28.1	**	25.5	26.8	
絶対・なるべくしたい	62.6	62.5	62.8		63.1	61.9	
考えていない	29.0	29.2	28.5		28.6	29.4	
夫妻の役割分担に対する意識							
世帯の収入：夫妻が同等に責任をもつ	35.9	35.7	36.5		35.3	36.8	
家事：夫妻が同等に責任をもつ	44.2	43.7	45.9	*	42.9	46.1	***
育児：夫妻が同等に責任をもつ	77.9	78.5	76.4	*	78.6	76.9	**
子ども観							
家族の結びつきが深まる	68.2	69.7	64.3	***	70.1	65.6	***
子どもとのふれあいが楽しい	64.4	65.8	60.7	***	66.6	61.5	***
仕事に張り合いが生まれる	53.2	54.5	50.0	***	54.8	51.3	***
子育てを通じて自分の友人が増える	13.7	13.9	13.3		13.8	13.5	
子育てを通じて人間的に成長できる	52.8	53.8	50.4	***	54.2	51.0	***
老後の生活の面倒をみてもらえる	8.4	8.4	8.2		8.6	8.0	
子育てによる心身の疲れが大きい	15.2	15.7	13.8	**	15.8	14.4	*
子育てで出費がかさむ	39.1	40.0	36.8	***	40.4	37.4	***
自分の自由な時間がもてなくなる	35.8	36.8	33.2	***	37.5	33.5	***
仕事で十分にできなくなる	4.0	4.1	3.6		4.1	3.8	
子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	1.6	1.7	1.5		1.7	1.5	
社会から取り残されたような気になる	0.8	0.8	0.7		0.7	0.8	
子どもにどのように接すればよいかわからない	5.8	5.9	5.5		6.0	5.4	
その他	2.4	2.4	2.4		2.2	2.6	
その他カッコ内に記入あり	2.4	2.4	2.4		2.2	2.6	

(表3のつづき)

変数	第1回調査		第1～3回継続の有無別			第1～5回継続の有無別		
	(参考)	3回全て	脱落1)	検定	1～5回	脱落2)	検定	
								%
子どもを持つ意欲								
絶対欲しい	23.8	23.3	25.0		23.2	24.6		
絶対欲しい・欲しい	62.5	62.1	63.6		62.1	63.1		
どちらとも言えない	26.9	27.1	26.4		26.8	27.1		
経済状況								
前年の所得の有無:あり	85.2	86.1	82.9	***	86.7	83.1	***	
働いて得た所得の有無:あり	83.8	84.9	80.8	***	85.6	81.3	***	
その他の所得の有無:あり	18.1	18.5	17.2		19.4	16.4		
児童手当受給の有無:あり	82.7	86.1	70.5	***	87.2	73.8	***	
保育料支出の有無:あり	4.6	4.8	4.1		4.9	4.1		
子どもの教育費支出の有無:あり	7.8	8.3	6.7		8.5	7.0		
他の家族との支出区別:できる	73.6	73.7	73.3		74.1	72.9		
親との同居								
自分の父親と同居	66.5	70.7	55.5	***	72.1	59.1	***	
自分の母親と同居	73.2	77.7	61.6	***	78.9	65.9	***	
配偶者の父親と同居	13.5	14.2	12.0		14.2	12.7		
配偶者の母親と同居	14.8	14.9	14.6		15.2	14.4		
第1子の状況								
性別:女	47.9	49.6	42.2	**	51.9	40.9	**	
同居している	93.0	94.1	88.7	***	95.4	88.4	***	
平日の日中に世話をしている者:自分	6.7	5.7	10.2		6.4	7.4		
平日の日中に世話をしている者:配偶者	45.1	46.3	40.9		47.0	41.8		
平日の日中に世話をしている者:自分の父	2.7	3.2	1.1		3.5	1.4		
平日の日中に世話をしている者:自分の母	5.8	6.4	4.0		6.8	4.2		
平日の日中に世話をしている者:配偶者の父	2.1	1.8	2.8		2.3	1.8		
平日の日中に世話をしている者:配偶者の母	7.8	8.4	5.7		8.8	6.0		
平日の日中に世話をしている者:その他	15.4	16.1	13.1		16.8	13.0		
第2子の状況								
性別:女	47.4	47.1	48.3		46.0	50.0		
同居している	93.8	94.2	91.7		96.3	88.1	**	
平日の日中に世話をしている者:自分	5.8	5.3	7.7		6.0	5.4		
平日の日中に世話をしている者:配偶者	53.0	56.0	41.8	*	58.1	43.2	**	
平日の日中に世話をしている者:自分の父	3.2	3.5	2.2		3.9	2.0		
平日の日中に世話をしている者:自分の母	8.1	8.5	6.6		8.5	7.4		
平日の日中に世話をしている者:配偶者の父	3.0	2.9	3.3		2.8	3.4		
平日の日中に世話をしている者:配偶者の母	6.0	6.5	4.4		5.6	6.8		
平日の日中に世話をしている者:その他	18.5	18.8	17.6		20.4	14.9		
第3子の状況								
性別:女	43.6	47.9	32.1		45.5	40.0		
同居している	98.7	98.3	100.0		98.2	100.0		
平日の日中に世話をしている者:自分	10.6	5.3	24.1	**	4.4	22.2	**	
平日の日中に世話をしている者:配偶者	64.4	70.7	48.3		72.1	50.0	*	
平日の日中に世話をしている者:自分の父	1.9	0.0	6.9		0.0	5.6		
平日の日中に世話をしている者:自分の母	9.6	8.0	13.8		5.9	16.7		
平日の日中に世話をしている者:配偶者の父	2.9	2.7	3.4		2.9	2.8		
平日の日中に世話をしている者:配偶者の母	8.7	8.0	10.3		7.4	11.1		
平日の日中に世話をしている者:その他	20.2	20.0	20.7		22.1	16.7		
子育て負担感:あり	38.1	38.0	38.7		37.8	38.7		
子どもの有無:あり	5.6	6.1	4.5	***	6.3	4.8	***	
就学前の子どもの有無:あり	4.8	5.3	3.6	***	5.5	3.8	***	
標本数	13,743	9,837	3,906		7,769	5,974		

1)第2回、第3回調査両方、あるいは少なくともどちらかで脱落したサンプル。

2)第2回～第5回のすべて、あるいは少なくとも1回は脱落したサンプル。

注)有意水準 \*\*\* &gt;.001, \*\* &gt;.01, \* &gt;.05。

#### 4. 第3回および第5回調査のサンプルのゆがみ

第1回調査の全サンプルの回答(「理想」の調査)と、第3回で回答したサンプルまたは第5回で回答したサンプルに限った平均値・分布を比較した結果が表4、5である。第3回

よりも第5回調査の方が、実際の回答サンプルに限った場合、1%水準、5%水準で差が有意である項目が増えている。差が有意となっている項目は、表2、3でみた継続・脱落サンプルの比較とほぼ同様である。主な特徴を述べると、第3回、第5回まで継続しているグループでは、理想的なサンプル、つまり第1回の全回答者に比べ、年齢が高い、配偶者や子どもを持つ、子ども数が多い、自分の父親、母親と同居している、同居人数が多い、就労所得・合計所得が高い、通院・入院していなかった、大学・大学院卒でない、在学中・通学中でない、就業している、事務・販売・サービス業でない、という人の割合が多くなっている。子ども観では、継続者に子ども・子育てにプラスのイメージも、負担感ももっている傾向がある。継続者の方が子育ての経験者が多いためであると思われる。

このように、調査の回を重ねることでサンプルのゆがみが生じていることがわかる。そのゆがみは、主として、年齢、配偶関係、子どもの有無や親との同居状況などの世帯構成就業状況等の面で、また、学校を卒業しているか否か、就業しているか否か、所得などの経済活動・経済状況の面で生じているといえる。

表4 理想の調査と現実の調査の比較：連続変数

	第1回調査		3回全て回答		検定	5回全て回答		検定
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		平均値	標準偏差	
出生年月(西暦)	1974.5	4.3	1974.3	4.3	***	1974.2	4.3	***
年齢	334.7	51.4	336.5	51.6	***	338.4	51.6	***
入院期間(月)	1.8	3.0	1.8	3.1		1.7	3.0	
就職年(西暦)	1997.0	4.2	1996.8	4.3	***	1996.7	4.3	***
勤続月数	65.2	51.2	67.5	51.8	***	69.4	52.2	***
1週間の就業時間	43.9	17.8	44.0	17.5		44.2	17.2	
1週間の勤務日数	5.3	0.9	5.3	0.9		5.3	0.9	**
通勤時間(片道・分)	32.4	27.5	31.6	26.1	*	31.7	26.4	*
希望子ども数	2.15	0.79	2.2	0.8		2.2	0.8	
平日の家事・育児時間(分)	56.6	90.5	55.6	87.2		56.3	88.4	
休日の家事・育児時間(分)	173.9	248.7	176.8	250.9		181.5	253.7	*
働いて得た所得(万円)	312.1	220.9	313.9	225.0		318.8	228.1	*
0を含む就労所得(万円)	308.9	222.0	311.36	225.88		316.25	228.92	*
その他の所得(万円)	39.1	83.6	39.1	210.2		39.0	228.0	
0を含むその他の所得(万円)	8.5	42.1	8.5	99.1		8.8	109.4	
0を含む合計所得(万円)	259.1	231.5	266.6	275.1	**	273.8	286.7	***
支出額(千円)	495.0	908.3	489.6	902.7		484.2	907.7	
保育料(千円)	100.3	285.6	97.3	306.4		103.1	336.6	
子どもの教育費(千円)	111.6	257.5	122.3	451.5		118.8	472.8	
同居人数	2.60	1.63	2.8	1.6	***	2.8	1.6	***
第1子出生年月(西暦)	1997.3	3.4	1997.4	3.2		1997.4	3.2	
第1子月齢	60.3	40.2	59.4	38.9		59.9	38.1	
第2子出生年月(西暦)	1998.6	2.8	1998.7	2.6		1998.8	2.5	
第2子月齢	45.5	33.3	43.34	30.92		43.42	29.29	
第3子出生年月(西暦)	1999.5	2.4	1999.7	2.5		1999.8	2.0	
第3子月齢	35.4	29.9	33.7	30.5		31.3	24.6	
子ども数	0.10	0.43	0.10	0.44		0.11	0.46	**
就学前の子ども数	0.07	0.34	0.08	0.36	*	0.08	0.37	**
標本数(n)	13,743		9,812			7,750		

注)有意水準 \*\*\* >.001、\*\*>.01、\*>.05。

表5 理想の調査と現実の調査の比較：離散変数

変数	第1回調査	第3回まで全て回答		第5回まで全て回答	
	%	%	検定	%	検定
最終学歴					
大学・大学院	33.1	32.1	***	31.4	**
短大・大学・大学院	36.4	35.5	***	35.0	**
中学校	7.3	6.8	***	6.9	
短大	3.3	3.4		3.5	
卒業・在学の別：在学中	12.7	11.3	***	10.3	***
1年間の入院・通院					
平成13年11月～14年10月に通院した	6.0	6.0		6.1	
平成13年11月～14年10月に入院した	3.2	3.2		3.2	
通院・入院はしていない	85.5	86.7	***	86.9	***
就業の状況					
現在、仕事についている(休業含む)	88.0	88.9	**	89.7	***
家事に従事している	0.6	0.6		0.6	
通学している	5.7	5.1	**	4.5	***
複数の仕事についている	6.9	6.7		6.5	
就業形態					
正規の職員・従業員	6.8	6.6		6.7	
自家営業・内職	4.5	4.8		5.0	*
雇用保険の加入：雇用保険あり	78.9	79.6		80.3	*
従業員規模：従業員30人未満	37.9	38.0		37.7	
職業					
専門的・管理的仕事	34.0	34.7		34.7	
事務、販売、サービス	33.9	32.9		32.0	**
就業希望					
就業希望あり	68.0	68.7		69.6	
正規の職員・従業員希望	45.1	47.8		49.5	*
就職活動をしている	67.9	69.1		69.7	
配偶者の有無					
配偶者あり	30.5	32.3	***	34.0	***
異性の恋人と同居	2.1	1.5	**	1.3	***
配偶者と同居：同居している	99.5	99.6		99.6	
結婚意欲					
絶対したい	26.1	25.3		25.5	
絶対・なるべくしたい	62.6	62.5		63.1	
考えていない	29.0	29.2		28.6	
夫妻の役割分担に対する意識					
世帯の収入：夫妻が同等に責任をもつ	35.9	35.7		35.3	
家事：夫妻が同等に責任をもつ	44.2	43.7		42.9	*
育児：夫妻が同等に責任をもつ	77.9	78.5		78.6	
子ども観					
家族の結びつきが深まる	68.2	69.7	***	70.1	***
子どもとのふれあいが楽しい	64.4	65.8	**	66.6	***
仕事に張り合いが生まれる	53.2	54.5	**	54.8	**
子育てを通じて自分の友人が増える	13.7	13.9		13.8	
子育てを通じて人間的に成長できる	52.8	53.8	*	54.2	*
老後の生活の面倒をみてもらえる	8.4	8.4		8.6	
子育てによる心身の疲れが大きい	15.2	15.7		15.8	
子育てで出費がかさむ	39.1	40.0		40.4	*
自分の自由な時間がもてなくなる	35.8	36.8	*	37.5	***
仕事が多分にできなくなる	4.0	4.1		4.1	
子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	1.6	1.7		1.7	
社会から取り残されたような気になる	0.8	0.8		0.7	
子どもにどのように接すればよいかわからない	5.8	5.9		6.0	
その他	2.4	2.4		2.2	
その他カッコ内に記入あり	2.4	2.4		2.2	